

C 主要史料 (岩手県)

●史料1 「雑書」安永八年四月四日条 (盛岡市教育委員会編『雑書 盛岡藩家老席日記 第三〇卷』東洋書院、二〇一三年)

一、御目付共伺左之通、

遊女躰之者召抱渡世商売之儀至而御国風之御差障二相成、古来より敵敷御停止被仰付置候得共、心得違御政道相犯候者有之候得者御詮議之上御追放、或者過料金御城下払等御仕置被

仰付来候処、此度肴町友吉八幡丁源兵衛馬町清兵衛三太郎石町左助、右小宿人寄いたし、或者年若之女抱置密々渡世之趣相聞得御詮議之上何茂及白状籠舎揚屋等被 仰付置候処、先年御仕置二順シ夫々ニ御片付被 仰付候、然処郡山・花巻筋二茂右渡世之者有小宿仕候由相聞得候、脇御場所与違花巻・郡山者御上下御通筋御城下茂同前之所二而、右躰之不作法渡世之者急度被遂御詮議、爰元御片付ニ准シ可被 仰付旨御沙汰御座候、右御心得を以黒沢尻辺迄茂御内々御詮議相知候ハ、宿仕候者名本御書上御伺可被成旨御沙汰御座候、

月日

右之通伺出候間、伺之通被 仰付、盛岡五御代官并郡山御代官江申渡候様、且花巻江者御郡代迄御目付より為申遣之、

●史料2 「内史略」后六 (『岩手史叢 第四卷』、岩手県文化財愛護協会、

一九七四年)

一、此御代津志田町を桃町と改大国堂を御建立<sup>(利敬代)</sup><sub>堂の額 御直筆</sub>、社中桃桜を植、池を掘て藤棚をかけ、別当<sup>兼副官</sup>御時斗植村友八<sup>後小倉ト改 又近江ト改</sup> 大国堂の脇畑を平して居宅建給りて住居、祭事四月九日也、市中に茶屋商売を被仰付者盛岡町

より引越、「新」<sup>(朱書)</sup>

亀屋・鶴屋・玉や・常盤や・生田や・深川屋・松葉や・浜や

是等の茶屋二階造りの普請也、宮古鉄ヶ崎買女共を呼寄<sup>多く十四、五、市中にて密々蕩楽商売人・寄せかしまき事<sup>(まじ)</sup>をなす者、老丁限稠敷御吟味、悉く男女に限らず彼地へ引越被仰付、女の子積有をハ是を稽子或ハ稽者と名付、馬町与市と云者彼地へ引移りて彼稽者を支配し、茶屋客の乞に任せて老組兩人或ハ式組老人老てうし金式朱、与市より送迎す、是を見盤ト唱ふ、往來の遊客駕籠二乗、是をあんほつと俗に云、津志田町并川原町両所に有、是を昇若者立派の出立にて両所に数人有り、是に乗て往來する有、歩行にて通ふ有、昼夜の遊客夥しく追日繁昌し、酒屋・小間者<sup>(物)</sup>・ろうそく・油・肴屋・青物屋、万物売買不自由なく夫々の商人店を開き、大国天祭礼四月八日・九日の両日ハ社内が高く仮屋をしつらひ、彼稽者銘々稽尽多くハ長唄・常盤津節二而踊り也、参詣見物老若男女群集す、此時津志田町多くハ商人の居宅と成、仕切より此方街道並木を剪取、左右共町家建連ね商人の居宅と成、此時仙北町舛形向の茶屋又座敷を建て、宮古売女を呼寄茶屋商売す、又築川橋向の茶屋共是ニ准ス、</sup>

●史料3 「雑書」文政二年正月二十八日条 (マイクロ版『南部藩家老席

日誌』雄松堂)

一、被 仰出左之通、

津志田町之儀者

御城下付近ニ而旅籠屋商売仕候事故、抱子共・遊芸者茂有之、善悪与なく多人入込候処より自分盛岡江入組候出入俣出来候間、此度御町奉行支配被 仰付候、御町並之外ハ是迄之通御代官支配可仕旨被 仰出、

●史料4 「内史略」后六（『岩手史叢 第四卷』、岩手県文化財愛護協会、一九七四年）

一、新夕ニ御建立の津志田大黒堂、見前恵比寿堂祭礼相止、乍然所鎮守の事故於所祭礼ハ勝手次第、御堂并社内奉納物ハ其俣被差置、津志田村江御建被遊候御休息所御取毀、同所へ新規ニ相建候茶屋御停止、二階悉く為御取毀盛岡へ引越、此場所へ集りし稽者・踊子・諸商人もいつとなく居宅取こほし、銘々御城下手寄衛士の方へ引移、大黒別当植村小倉居宅取毀川原丁片原へ引移、此所ニて癩疾煩卒す、急チ一兩年の内如元百姓家並と成、在々盛岡諸士差上り之町家兼祠官被仰付、持宮有之所不殘御取放、在々隅々ニ至迄悉く古法の如く、新規事悉く相止、

●史料5 「内史略」后十（『岩手史叢 第四卷』、岩手県文化財愛護協会、一九七四年）

一、此御代八幡丁江御免茶屋と俗ニ云茶屋を被仰付、西川屋・木村や・尾張屋・福池や・桜木・山口や・島や・布袋や・中村や・吉田や、稽者と名る女の子十七人、后二三戸丁ニ又三軒御免、三浦や・高橋や・扇や、是又稽者・遊戯の者此等の茶屋ニ至り、稽者金式朱を招き酒盛遊ふ、料理望ニ任せて出ス、実ハ内証ニ而宮古鍛ヶ崎より売女年季何両ト買切抱置、然ルに御城下土・町人蕩放の為身を失ふ者多く、后御停止別商売被仰付、弘化の初年の頃より稠敷御停止也、三味線ハ盲人外音曲の師商売の外、稽者の女三味線是又御停止と成、

●史料6 「内史略」后十三（『岩手史叢 第五卷』、岩手県文化財愛護協会、一九七五年）

一、 惣丁検断

向中野通御代官所之内津志田町続手前之方両側江家作住居仕度者有之

候ハ、地所御吟味之上被下置町並ニ被仰付候間、望之者は願出可申旨御沙汰ニ候、

嘉永三年十一月十八日 似鳥隣 葛巻善左衛門町奉行也

右の通被仰出候ニ付、願出建家引移住居之面付左の通、但、裏行十四間（朱書）「に限り」表口小間不同願ニ応多少有、

一、八幡丁金 蔵 一、同 儀 助 一、同 政 吉  
 一、同 紋次郎 一、同 又兵衛 一、同 駒 吉  
 一、同 万 蔵 一、同 与平治

右は嘉永三年十二月二十二日 伺之通被仰付、

一、三戸丁 勘之助 一、同 吉太郎 一、同 金之丞  
 一、同 市右衛門 一、十三日町半 助 一、馬町 政 吉  
 一、馬町 源 助 一、同馬町 専 助 一、石丁 孫十郎  
 一、仙北丁 平 吉 右同年十二月廿六日願之通被仰付、  
 一、鉦屋丁 春 助 一、仙北丁 市兵衛 一、生姜丁 命 助  
 一、八まん丁太兵衛 一、八まん丁重次郎 一、八まん丁茂 八  
 一、津志田町作兵衛 一、津志田町多 助 一、津志田町長 太此津志田八名代のミにて皆御城下町人共也、

ノ三拾四人

向中野通御代官所津志田町続北の方町並に被仰付、地所被下置候場所并堰代・道代引竿御檢地左之通、

但、建家之表通ニ有之候堰建家之裏通江堀廻し、同裏通道新夕ニ通ハ往来有之、

一、高七石六斗三舛一合 向中野通御藏高 津志田村  
一、同四石八舛九合 見前通同高 三本柳村

右建家二付引高也、  
嘉永四年辛亥四月 御檢地御算方福島円治 川守田多右衛門 其後  
追年出入も有之略之、

●史料7 「内史略」后十七 (『岩手史叢 第五卷』、岩手県文化財愛護協会、一九七五年)

一、同十二月四日 町奉行・御目付・郡奉行・御勘定奉行江被仰出、  
御差支の義有之別紙之通津志田町江被 仰出、以前之通向中野通御代官  
支配被仰付候、此旨相心得可申候、

覚

向中野通御代官江

御差支之義有之別紙之通津志田町へ被仰出候間、以前之通致支配、心得  
違之者無之様取扱可申候、但、別紙は津志田町へ達書相添申渡之、

覚

惣丁檢断

御差支之義有之別紙之通津志田町江被仰出、以前之通御代官支配被仰付  
候間、此旨相心得可申候、

覚

一、隠売女并芸者渡世之類、前々より御沙汰之通御吟味之上重キ御咎、或  
ハ諸湊へ御追放可被仰付候条、弥堅相守心得違之者無之様誠精可申含候、

津志田町 檢断并丁内之者

御差支之義有之遊女屋御制禁被成、以前之通御代官支配被仰付候、仍之檢  
番并遊女屋・貸座敷渡世之者、惣而茶屋構ニ致客取候者料理茶屋・駕籠屋  
早々商売替致可申候、遊女・芸者・酌取女の類、家元有之者早速相戻、娘  
等右様仕立置候分行状相改可申候、右家作之義追々取毀し、茶屋風ニ無之  
様町家之通来五月迄ニ作り替可申候、尤以来隠売女・芸者渡世之類ハ御吟

味之上重キ御咎、或ハ諸湊江御追放可被仰付候、十二月四日

●史料8 「鍵屋日記」(『津志田遊廓志』所収、岩手県立図書館蔵)

是迄御免茶屋与相唱、遊女屋同様之所業致候者并料理茶屋渡世候者之内、  
無願ニ而渡世候者も有之哉ニ相聞、以之外之事ニ而、右者今般取締之儀被  
仰出候次第有之ニ付、一切相廃止、尤右業躰之者急々余業江相変シ候儀難  
渋候者ハ、貸座敷并料理茶屋渡世候者も願済之有無ニ拘へらず、是又更ニ  
願出へし、其情実篤与取調之上税額取極メ鑑札可下渡事、

但し、本条願出候者者当月十五日を限り候条、若し無願ニ而營業候  
者者見当次第屹度罪料可申付、等閑なく相心得可申事、  
右之通相達候条漏様可相触もの也、

壬申

十一月五日 岩手県権令島惟精

●史料9 「鍵屋日記」(『津志田遊廓志』所収、岩手県立図書館蔵)

記

今般被仰出候次第も有之ニ付、芸者・酌取或者飯盛・洗濯女之類一切相廢  
シ候条、是迄身代金相渡年季又ハ無年季ニ而雇入老外客取候節、揚代金之  
半を以為給金相渡約定ニ而、年季無年季ニ而雇入候共、布告当日より日数  
十五日之間、其親許或者親類之内江相返シ、其旨双方より可届、尤身代金  
受取方之儀者示談を遂へシ取引候共、先般布達候通公裁不立候事、

其親許於テ芸者・酌取其外飯盛し營業致候者、愈々改業ニ難渋候者者、  
是迄之通營業差許可遣候条、其本人より更ニ願出へシ、取調之上税額  
相建鑑札可下渡、尤是迄之芸者・酌取之内ニ而者、売女同様所業致候  
者者、芸者・酌取鑑札之外ニ飯盛之鑑札願出へし、都而無鑑札ニ而營  
業不相成候事、是迄雇主之ため芸者・酌取其外飯盛等之所業致候者、

今般親許或ハ親類之内江引請候者之内、差向話斗難決候者者前条同様  
本人共より願出ヘシ、取調上税額相定鑑札可下渡事、前条之通芸者・  
飯盛之名儀ニ而鑑札請取営業候者者、其身代一代限り与相心得可申、  
若其者年老候後本人名前ハ幸ニ而他人江營業致候儀者不相成候、尤追  
而改業之見込相定候ハ、早々可届出事、  
右之通相達候条堅く可相守、若違輩之者有之ニ於テハ、嚴料可申付候条、  
此旨小前未々迄不漏様可相触もの也、

壬申

十一月五日 岩手県権令島惟精

●史料10 『岩手県布達全書 三 明治七年』（岩手県第一課、一八七八年）

第百八拾五号 十月廿二日

去壬申年人身売買嚴禁ノ儀公布相成從來遊女其他飯盛等ノ所業致候者ハ  
解放其家許へ可引渡旨被仰出候ニ付管下右様ノ所業致シ候処右ノ内ニモ  
急々余業ヲ営ム見込不相込差向ハ其者共一己ノ存意ヲ以前業稼方願出候  
分ハ出格ノ詮議ヲ以芸妓飯盛ノ各儀ヲ以各其制限相立稼方聞届遣シ候然  
ル処前條稼人ノ内ニハ從來ノ弊習猶脱シ兼元抱主共ト内実馴合一旦解放  
相成候者ヲモ猶又旧約ノ年季ヲ継キ或ハ更二年季ノ内約ヲ以營業致候者  
モ有之哉ニ相聞甚以不都合ノ事ニ候全体最前解放ノ御趣意ハ人民タル者  
ノ權利ヲ保護相成候訳合ニ而其事タル特別至仁ニ出タル事ニ候ヲ本人共  
並父兄共御趣意ノ難有ヲ弁知セス今日ニ至候テモ猶牛馬同然ノ挙動及ヒ  
候ハ不相濟事ニ候條前段御趣意柄並当聴ヨリ兼テ相達候次第等得ト会得  
致シ心得違無之様可致此旨更ニ布令候事

右ノ趣区内へ無洩可触知者也